

拝啓 今般原子力委員会委員（非常勤）となることを受諾致しまし
たが、これは次のような考慮の結果でありますので御諒承頂き度存
じます。

先ず第一に基礎物理学研究所長としての職責を果すことと委員と
しての責任を果すことと兩立し得るかどうかを懸念致しましたが、
この点につきましては重大な支障はないという見通しを得ました。
将来もしも兩者が兩立し難いと推定されるようになりましたら委員
を辞退するつもりであります。

第二にわが国における原子力の平和利用の態勢が曲りなりにも整
つてきた今日、私がどこまでも委員となることを拒否しますと学界
が協力的でないという一般的印象を与える恐れがありますので、委
員会が軌道に乗つたらでさるだけ早く辞退させて貰うとの条件の下
にお引受けした次第です。

わが国における原子力の平和利用には今までと同様今後も多く
極めて困難な問題がふくまれていますので、私に取つては素粒子論
研究以上の重荷であります。できるだけの努力を致し度今後の御
援助をお願い致しますと同時にこの機会にわが国における原子力の
あり方についての御高見をお聞せ頂き度存じます。

昭和三十年十二月二十六日

勿々

京都大学基礎物理学研究所長

湯川秀樹

井上 健 殿